

マン島の初期中世装飾石彫を中心とした考古資料に関する調査

文学研究科 博士後期課程 2年

岩永 玲

英国

2018年8月1日～2018年8月10日

計画の概要

初期中世のブリテン諸島では、多様な文様を持つ石造の記念碑・墓石（初期中世装飾石彫）が生産された。当該石造物は、初期中世におけるブリテン諸島とその周辺地域の文化交流の在り方、特に9世紀以降に本格化するスカンディナヴィア地域からの文化的影響を問う上で重要な資料である。

本渡航は、ブリテン諸島の中央に位置するマン島の石彫を調査し、同地における石彫の生産と社会の関りの特徴を探ることを目的とする。また、得られたデータを申請者がこれまでに収集したブリテン島（特にイングランド北部）の石彫データと比較することで、マン島で製作された石彫の特徴やその背景についても考察する。

現地での具体的な作業内容は、①石彫を所蔵する博物館や教会を訪問し、石彫の石材・製作に関わる痕跡・形態・法量・文様・碑文といったデータを収集すること、②初期中世の遺跡や遺物を実見すること、③島内の主要な遺跡を見学し、マン島の歴史に関わる知見を広げることである。

成果

Manx Museum、Old Kirk Braddan、Onchan Church、Lonan Old Church、Maughold Church、Leazyre Church、Bride Church、Andreas Church、Jurby Church、Ballaugh Old Church、Michael Church、St.Jhon's Chapel、St.Trinian's Chapel、Old St.Runius' Church、Santon Church、Malew Church、Ballaqueeneyにて初期中世装飾石彫を実見し、各石彫の石材・製作に関わる痕跡・形態・法量・文様・碑文を記録した。記録は写真撮影を中心に行い、重要な文様や製作痕跡が認められる資料については拓本および実測図も作成した。また石材については、島内各地の露頭の観察も行った。

1. 石材

大半の石彫は、島内の随所で容易に手に入る粘板岩（泥岩）から製作されている。粘板岩

は薄く剥離する性質のある石材であるが、この性質を利用して面を彫り下げた痕跡のある事例が確認できた。石の性質を製作の際に効果的に用いていることが分かる。各地の露頭では、数センチから数十センチに及ぶ石英の塊を含む粘板岩が多く観察できたが、石英塊を含む石彫は見られなかった。これより、硬度の高い石英塊を避けて石材を切り出し加工したことが分かる。

2. 製作技術

丸ノミや平ノミを用いて文様を施文しているが、平ノミの使用率が圧倒的に高い。同じ面積を加工する場合に平ノミの作業効率の方が良いことや、丸ノミを打ち付けた際に石材の表面が必要以上に剥離することが背景にあると思われる。また同時期のブリテン島の石彫には、文様線の縁部を面取りし文様線に立体感を出す事例が多く見られるのに対し、マン島の石彫は面取りを施さないため極めて平面的な印象を受ける。両地域の石工技術の系統が異なることに加え、マン島では石材が薄く文様に立体感を与えるに足る厚みがないことが原因と考えられる。

3. 形態

ほぼ全ての石彫が、縦長の扁平な板状を呈する（板碑に分類できる）。例外として、Old Kirk Braddan 所蔵の十字架を模った事例が挙げられる。ブリテン島では多様な形態の石彫が製作されたのに対し、マン島の石彫の形態がこのように単純なものばかりである背景の一つとして、剥離しやすい石材を複雑な形に加工するのが困難であった可能性が指摘できる。

4. 法量

完形の状態で現存する資料が少なく、特に縦幅の正確な情報が得られたものは僅かであった。横幅は概ね 22cm~53cm、奥行きは概ね 4cm~9cm に収まった。このような薄い石彫は同時期のブリテン島には少なく、マン島のものとは性格を異にする。

5. 文様

十字文を刻んだだけの単純なものから、組紐文や動物文といった複数の要素が配置される複雑なものまで幅広い文様が確認できる。組紐文・動物文には、9世紀~11世紀にかけてスカンディナヴィア地域で流行したポーレ様式・イエリング様式・マーメン様式・リングケリケ様式等の文様様式に属することがこれまでに指摘されてきた事例が含まれる。しかし各様式の定義の幅が広いため、同一様式に属する文様にも地域により細かな相違が見られる。様式ごとにブリテン島の資料とマン島の資料の比較を行い、それぞれの系譜を明らかにする必要がある。

6. 碑文

ラテン文字、オガム文字、ルーン文字による碑文が刻まれた資料がある。先行研究により解読は完了しているが、字体の詳細な検討には未だ余地がある。石彫の製作年代を探るうえで字体は貴重な情報源であるため、文様分析と合わせて今後の課題としたい。

以上に述べた石彫データ収集に加え、Manx Museum では初期中世の多様な遺跡から出土した遺物の展示を、Balladoole Viking Ship Burial では初期中世の船葬墓を、Tynwald Hill では初期中世に世界最古の議会が開かれた場所を見学した。また本研究に直接の関係はないが、新石器時代の石室墳 Cashtal yn Ard および King Orry' s Grave、初期中世に築造された城砦 Peel Castle および Castle Rushen も見学し、マン島の歴史に関する見識を深めた。



図1 粘板岩の露頭



図2 丸ノミの使用痕跡



図3 平ノミの使用痕跡



図4 ルーン碑文を持つ例



図5 拓本による文様の記録